

## 5つの方針についての5年後の姿と具体的な取組に関する意見(第1回協働推進委員会)

1. 人材・団体を育成し、活動を支援する。
2. 多様な主体のつながりの場を創出します。
3. 情報の発信と共有をすすめます。
4. 市役所の協働化をすすめます。
5. 成果を共有し、協働意識の醸成をすすめます。

基本方針	グループ	分野	グループ協議での発言要旨
人材・団体を育成し活動を支援する	2	5年後の姿	地域の子供から高齢者まで安心して暮らせるきずなができていること
	2	5年後の姿	地域で防災のためのネットワークができていって、緊急時に対応できる
	4	5年後の姿	学生が社会人になった後も、地域のことを考え、投票にも行く。大学できちんと仕掛けをやれば変われると思う。
	4	5年後の姿	大学生、高校生、中学生の地域課題を考える取組がひろがり、地域への愛着が生まれ、一旦県外に出ても岡山へ帰ってくる。
	2	大学	地域活動や市民活動の授業で単位取得。地域活動へのきっかけとする
	4	大学	大学生がもっと地域に出て、地域課題を考える取組を行う。
	4	大学	NPOやボランティア関係の授業で単位取得
	1	大学	大学の単位取得が動機だが、最初のきっかけとしては有効
	4	大学	各大学がNPO論、ボランティア論等の授業を行い、現場体験をNPOが受け持つ
	4	大学	大学とNPOの連携。連携式を開き公式に行った上で、NPOに大学に来て授業をしてもらったりして、学生を育てていく。
	4	大学	各大学の地域連携センターを窓口として、NPOのノウハウを大学の中に取り込んでいくとか。NPOに大学に来てもらい、塾のようなものを開く
	4	大学	NPO法人や市民団体へのインターンシップ
	1	若者	若者が関心を持てるような仕掛け
	1	若者	若者の支援も5年後の姿としてあってもよい。 これから岡山のまちを元気にしていく世代のつながりの場も必要
	1	若者	若者が参加するには、魅力的な大人がいるか、楽しいかどうか
	1	高齢者	増加する高齢者にどんどん社会参加してもらう
	2	小中高	地域の大人、中学生との交流の場(中学生だっぴ)の設定
	2	小中高	小中学校の総合学習「地域調べ」で地域に興味を持ってもらう取組を行っている
	2	小中高	学校の協力のもと、地域の祭りへの参加をきっかけとして、地域に興味をもってもらう
	4	小中高	高校生、中学生がもっと地域に出て、地域課題を考える取組を行う。
	4	小中高	中学生・高校生を地域活動の企画段階から参画させる
	4	小中高	子どもを指導する先生が様々な場所や機会に参加する
	2	市民団体・地域団体	きずなを深めるには、地域団体の人材育成が必要
	2	市民団体・地域団体	全国で活躍しているリーダーから話を聞く
	2	市民団体・地域団体	リーダーの集まる会議に参加し、他の情報を得る
	2	市民団体・地域団体	情報を共有して責任を担い合う
	2	市民団体・地域団体	公民館で町内会長研修を継続して実施
	4	市民団体・地域団体	地域のリーダーが様々な場に参加し、学び地域に還元する
	4	市民団体・地域団体	中学生・高校生を地域活動の企画段階から参加させる。中高生にまかせる活動。
	4	市民団体・地域団体	地域組織の世代交代を図る

多様な主体のつながりの場の創出	3	5年後の姿	企業に地域の話し合いの場に入ってもらえるようになる
	3	5年後の姿	企業の協力をいただくよう取り組む。まずは話し合いの場にはいってもらえることから初め、将来的に協働活動をしてもらう
	3	5年後の姿	表彰制度がメジャーになり周りから称賛される
	1	5年後の姿	活動がもっと楽しくなっていること
	3	地域拠点	地域が公民館の地域担当職員を地域の会議や行事に参加させ、育てることにより、職員のコーディネート力を高める
	3	地域拠点	5小学校に1か所という公民館もあるので、公民館以外のコミュニティハウス、ふれあいセンターなども地域の拠点に加えてはどうか
	3	地域拠点	小学校区をコミュニティの中心としてはどうか
	3	事例紹介	表彰の活動を公表できるようにする。行政がしっかりと把握し広報する。全学区に公表する。他の学区は真似をすればよい。
	3	事例紹介	市民のひろばで地域の事例を周知
	1	企業	企業と町内会がつながり、一緒に取り組む
	3	企業	企業を地域にいかに関わりを深めていくか。協賛金をもらうのではなく、実際に参加してもらう
	1	企業	戻込みする企業を地域に引き出す仕組みづくり
	1	企業	企業が地域に出て行って、地域活動を楽しめる風土づくり
	1	企業	企業を参加させるには、市税減免とか入札優遇とかインセンティブが効果的
	1	企業	企業にデータベースをどんどん宣伝すれば、企業の地域貢献を促せるし、その企業の従業員も個人的に参加するかも
	1	コーディネーター	課題を解決しようとする人をつなぐコーディネーター役の存在
	1	つながりの場	定期的に多様な主体がつながる場を用意 年に2~3回いろんな団体の活動状況報告や意見交換の場を用意
	1	つながりの場	ポスター発表の場を用意(長々としたプレゼンではなく)
	1	つながりの場	公民館を活用し、市民団体の活動を紹介
	1	つながりの場	フランスの市民活動の日のように、役場や広場に机を置いて活動発表や活動への参加呼びかけなど
	1	つながりの場	コミュニティのイベントや市民の日などに市民協働のブースを出してPR
	1	つながりの場	関心がない人を巻き込むため、協働とは違うイベントにブースを出す
	1	つながりの場	真面目に活動を紹介するのではなく、お祭りとかにブースを出して、かた苦しくないPRを行う
	1	つながりの場	関心のない人を巻き込む手段が必要
	1	コーディネーター	行政の人が外に出て引き込む
	1	サイトでのマッチング	つながる協働のひろばはもっと出会い・交流の場という視点を意識する。

情報の発信と共有	1	5年後の姿	情報を受け取った人が情報を活用し、課題が解決されること
	1	5年後の姿	小中学校区くらいで、どんな市民活動が行われているかといった情報のデータベースの作成。企業も地域住民として地域に協力しやすくなる。
	1	ウェブ	団体、解決課題、活動内容を掲載した掲示板の作成・情報発信
	1	ウェブ	データベースの作成・情報発信
	1	ウェブ	情報を受ける側が活用できる情報の発信
	1	課題の発信	解決の取組、今岡山にある市民の声や課題をわかりやすく情報発信
	1	地域拠点	公民館や地域センターで市民活動の情報提供
	1	発表の場	ネットの「市民協働ひろば」をリアリティで行う ネットの情報をそのまま現実社会で発信できるような場の用意
	1	市民のひろば	市民のひろばで毎月市民活動を紹介
	1	ターゲットごとの発信	リタイヤ前の社員がいる企業や子育て一段落の主婦へのわかりやすい情報提供
	1	ターゲットごとの発信	納涼花火大会の学生ボランティアが多い。単位取得が目的だが、ボランティアセンターでの掲示を学生が見ている
	1		メディアの有効活用
	1		商工会議所交差点のスクリーンでのPR 市のトップページでのPRとか目立つところでの情報発信
	1		こういうことができますではなく、こんな楽しさがあるという発信の仕方。参加したいと思うPR
	市役所の協働化	3	5年後の姿
4		5年後の姿	市と企業・民間が連携。市職員が協働を考えた上で仕事をするようになる。
3		職員が現場へ	公民館職員と地域担当職員が力を合わせ、外に出て地域課題の解決に取り組む
3		職員が現場へ	市の職員が現場に出てともに汗をかく
3		職員が現場へ	地域の課題解決を行う地域の集まりに市職員が出席する
3		職員が現場へ	各小学校区に市職員を1人配置し、一緒になって町おこしを考える
4		市民との関係	市と市民が対等に一緒にやっていく仕組みづくり。上下関係なく、一緒に汗をかく。
3		組織	市役所に企業の視点を入れる。ISO9000取得、マネジメントシステム。
3		評価	選別し落とす「評価」ではなく、「成長の基準」により成長を目指すやりかたをとってはどうか。
4		評価	市長が協働を頑張った職員を表彰する
4		意識改革	市の職員の意識改革
4			市職員とNPOなどとの人事交流を行う
4		職員研修	市職員への研修が必要。座学ではなくワークショップとか
4		インセンティブ	協働に取り組んだ市職員の評価向上。官民で協働の取組したら何かメリットがあるとか。予算削減に貢献したとか。
4		モデル事業	市民協働モデル事業の拡充。
4		モデル事業	市民協働モデル事業を地域や企業にもっと周知する
4		モデル事業	市政だよりもどこかと協働でつくってはどうか
4		モデル事業	行政との協働だけでなく、企業と地縁組織、企業と企業の協働による取組への支援も
4		提案窓口	市民が提案できる窓口となる課を設ける。
4		協働事例	1年に2つずつ各課が協働事例を増やすことを義務付ける

協働意識の醸成	2	成果発表	うまく解決できた事例の成果発表で成果を共有
	2	事例共有	成功事例などの情報を共有できる仕組みづくり
	2	地域拠点	公民館が課題解決事例を収集し、横で展開し合う
	2	表彰	アワード、表彰制度を毎年継続して実施し、啓発により活動団体を増やす
	2	ハンドブック	手に取りたくなる条例活用ハンドブックの作成配布
	2	ウェブ	つながる協働ひろばで自薦他薦の取組事例を紹介